

## 1. 河川整備計画の目標に関する事項

### 1) 流域及び河川の概要

福田川水系は、京都府京丹後市網野町に位置し、その源を久次岳(標高541.4m)に発し、網野町の中央部を北に貫流して、公庄川、新庄川をはじめとする支川を合流したのち浅茂川漁港で日本海に注ぐ二級河川である。本河川の幹線流路延長は12.4km、流域面積は30.5km<sup>2</sup>である。中流から上流にかけては全般に急峻な堀込み河道であり、下流は砂地の緩やかな堤防河川である。また、下流の平地の一部は、かつて潟湖(浅茂川湖)であったところが埋立により造成されたものである。

流域の気候は、典型的な日本海型の気候で、年平均降水量は1,800mm程度、冬季の降雪、梅雨期及び台風期の降水量が多く、特に台風期の豪雨により災害が多く発生している。年平均気温は13.6℃で対馬海流の影響で冬季も内陸の京都市等に比べて温暖である。

河川環境の特性としては、流域の80%が山地で、アカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ林など代償植生が多くを占め、中上流部は山と谷底に形成された農地の間を縫うように流れており、上流域はゲンジボタルやカワムツ等の生息がみられ、豊かな自然環境が多く残っている。市街地は下流の平地部のみであり、ゆるやかな流れの岸にはヨシ群落が見られる。魚類の生息は11科27種が確認されており、下流部では汽水性の魚種や回遊魚が多いのが特徴である。

福田川は、下流部において網野町の中心市街地を貫流しており、網野町民にとって、KTR網野駅と新旧市街地を結ぶ歩行者動線や自然に接するための貴重な水辺空間となっているとともに、河口部の海域が山陰海岸国立公園に含まれており、観光客の利用も多い。

水質については、福田川は環境基準A類型であり、基準地点の新川橋では、BODはここ数年基準値を満足しており、大腸菌群数については満足していない。

利水については、農業用水としてかんがいに利用されているほか、工業用水、水道用水に利用されている。

明治32年8月や大正7年9月の台風、昭和9年の室戸台風、昭和34年の伊勢湾台風等では、堤防の決壊や溢水により網野市街地が床上浸水したのをはじめ、橋梁の流失等大きな被害が発生している。

さらに、現在の河川改修事業のきっかけとなった昭和47年9月の豪雨、最近では平成10年9月や平成16年10月の豪雨などで、川幅の狭い中流部から下流部までの広い区間で溢水や越水をし、市街地が浸水する被害をたびたび受けている。

また、新庄川は川幅が狭く流下能力が低いことから、頻繁に溢水し、家屋浸水

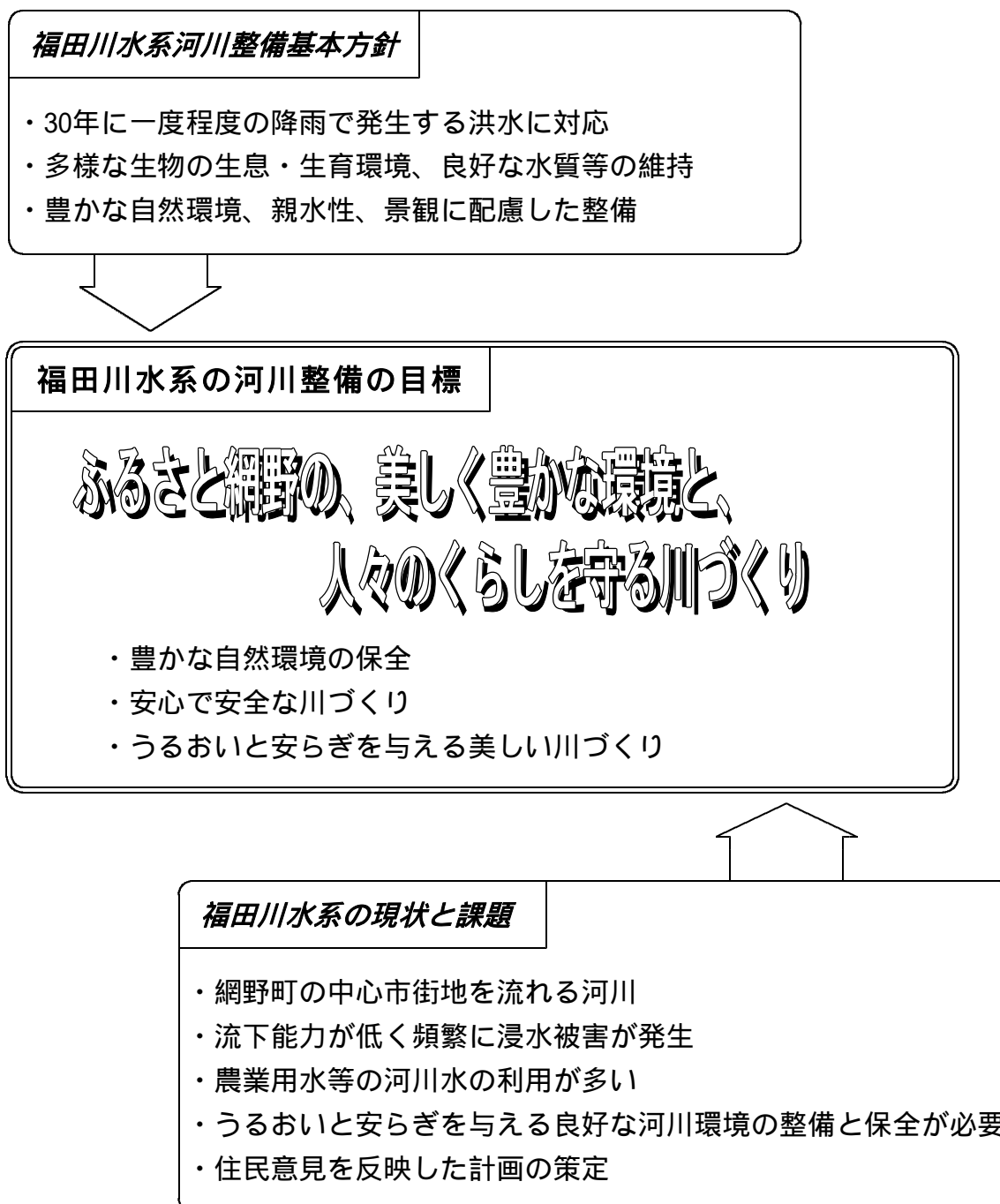
や道路冠水により地域住民の生活に大きな支障が生じている。

このような中、洪水による浸水被害の対策として、昭和50年から河川改修事業に着手しており、現在のところ河口から新庄川合流点までの約500mが概成している。

網野町の市街地周辺が、丹後の中核として栄える中で、福田川は、豊かな水と土地を地域にもたらすなど地域の社会、経済、文化の基盤を成しており、本水系の総合的な整備の意義は極めて大きい。

## 2) 河川整備計画の目標に関する事項

福田川水系河川整備基本方針及び福田川水系における現状と課題を反映して、福田川水系河川整備計画の目標を次のテーマとする。



#### ①計画対象区間

計画対象区間は、福田川及び支川新庄川の二級河川の区間とする。

#### ②計画対象期間

計画対象区間の整備は、概ね30年間を目標として実施する。

#### ③洪水・高潮等による災害の発生防止または軽減に関する目標

福田川では、昭和47年9月台風20号による豪雨、近年では平成10年9月台風7号や平成16年10月台風23号の豪雨により、網野町市街地で浸水被害をたびたび受けている。

また、新庄川も頻繁に溢水し、家屋浸水や道路冠水により、地域住民の生活に大きな支障を及ぼしている。

本整備計画においては、当面、平成10年9月台風7号や平成16年10月台風23号の洪水と同規模の出水に対し、下流部の網野町市街地の浸水被害の解消を図るため、洪水を安全に流下させる河川整備を実施する。

#### ④河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持

及び河川環境の整備と保全に関する目標

ア．河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

福田川水系における水利用は、水道用水、工業用水のほか農業用水である。流水の正常な機能を維持するために、引続きデータの蓄積に努め、今後さらに検討を行い、自然環境に配慮した河川整備の実施及び水利用の適正化、効率化、水源の涵養等の取り組みについて、利水者や関係機関との調整を図る。

イ．河川環境の整備と保全に関する目標

河川環境の整備と保全に関しては、豊かな自然環境に配慮し、多様な生物が生息できる水辺空間の創出、保全に努めるとともに、人々が水に親しめる美しい空間の創出を図ることを目標とする。